

1 目的

動植物の飼育・栽培活動等を通して、“限りある命”を身近に感じることでできる場を設け、自他ともに健康で安全な生活をしようとする意識を育て高めるために、地域で活躍されている方々から直接指導や助言を仰ぎつつ、命の尊さを感じ得させていきます。

2 内容

(1) 命を尊ぶ

- ・ 獣医師を講師に迎え、ウサギとのふれ合い教室（1年）や飼育教室（3年）を開催しました。学んだことを生かして、日常の世話は飼育委員会だけでなく3年生児童全員が交代で行いました。また、休日や長期休業時は、「ウサギボランティア」の保護者と児童が飼育小屋の清掃やえさやりを行いました。

(2) 命を守る

- ・ 毎月1回、短時間での防災訓練や防災に関する学習を計画的に行いました。また、講師を招いて、全校での不審者対応の防犯教室、交通安全教室、災害に対する訓練を行い、8月には着衣水泳教室（4・6年）を開催し、水難事故の防止等にも努めました。
- ・ 各学年ごとに企業の「食育出前授業」を活用したり、各学級で栄養教諭による食指導を行ったりしました。健康な体づくりと食べ物との深い関わりを学習することで、よりよい食生活をしようとする意欲を高めました。

(3) 命を育む

- ・ 花壇や学校園で草花や野菜を苗から開花・収穫まで継続して栽培しました。また、学校園の野菜栽培（ジャガイモ・サツマイモ）では、地域の学童農業体験クラブ員の方々の指導を受け、保護者の方にも参加していただきました。秋には、お世話になった学童農業体験クラブ員の方々をお招きして収穫に感謝する会を行い、収穫への感謝の気持ちを高めました。



【ジャガイモの収穫】

3 評価

- (1) 児童は日常的にウサギとふれ合うことで、命の尊さを感じ取り、命を慈しむ態度を養い、他者への思いやりの気持ちをより強くもつことができるようになってきました。
- (2) 防犯・防災学習を通して、自分の判断で危険を避け、より安全な行動をとろうとする児童のセルフ・ディフェンスへの意識が高めることができました。
- (3) 栽培・飼育活動や食育の授業を通して、児童は命を育てる大変さや食べ物の大切さ、食の安全性等に気付き、友達と協力しながら作業を進めたり、自分の食生活を顧みてよりよいものにしようと思ったりすることができるようになってきました。

4 課題

命の学習を進める上では、外部講師やボランティアの方々の存在が欠かせません。児童の発達段階に応じた専門的な指導がいただける地域の方々との連携をさらに深め、児童の学習意欲を支える支援を適切に行い、活動を継続していくことで、いっそうの充実を図りたいと考えます。